

## 令和4年度NWE Cグローバルセミナー開催要項

### 1. 趣 旨

ICT分野の技術革新が、身の回りで新たなサービスやイノベーションを創出する中で、「経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society 5.0）」を目指すことが提唱されています。こうした中、多様なニーズに応えるためにも、ジェンダーの視点からデジタル技術やイノベーションを捉えなおす取組が着目されています。

第67回（2023年）国連女性の地位委員会（CSW）の主要テーマも「ジェンダー平等と女性と女児のエンパワーメントのためのイノベーションとテクノロジーの変化及びデジタル時代の教育」です。

本セミナーでは、国内外の取組から多様なニーズに配慮し、ジェンダー平等の推進に寄与するデジタル技術の開発と利用のためには何が求められているのか考えます。

### 2. 主 題

デジタル技術はジェンダー平等を推進するか？

Does Digital Technology Advance the Gender Equality?

### 3. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

### 4. 配信期間

基調講演・事例紹介（オンデマンド配信）

令和4年10月14日（金）9：00～10月31日（月）17：00

パネルディスカッション

（ライブ配信）令和4年10月21日（金）14：00～16：00

（見逃し配信）令和4年10月26日（水）9：00～10月31日（月）17：00

### 5. 使用言語

日本語（オンデマンド英語講演は日本語字幕付。パネルディスカッションは日本語）

### 6. 募集人員

テーマに関心のある方 100名程度

### 7. プログラム（敬称略）

#### ◇基調講演（オンデマンド配信）

##### デジタル技術の格差縮小にはジェンダー平等を

ドロシー・ゴードン 国連教育科学文化機関（ユネスコ）みんなのための情報計画委員長  
Dorothy Gordon Chair, Information for All Programme, UNESCO

ガーナ出身。国連、政府機関、民間で活躍する専門家として、ジェンダーと技術、先住民の言語によるデジタルと情報リテラシー、技術と教育、人工知能等の分野で活躍。デジタル分野に存在する格差、第4次産業革命といわれるAIの導入や自動化によって変化する労働市場、女性と少女の再訓練や技能向上等を推進するニーズに応えるためのユネスコをはじめとする多国間イニシアチブの取組について、御講演いただきます。

#### ◇事例紹介（オンデマンド配信）

海外と日本から、女性による技術やイノベーションを推進している事例、技術やイノベーション分野でジェンダー平等を推進している取組を紹介します。

① 「AI とジェンダー」(国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ))

一見すると性中立的にとらえられている AI の自動意思決定が扱うデータやデータ処理のアルゴリズムに埋め込まれた、ジェンダー・バイアスについて解説した動画です。

② 「安全安心な街づくりアプリ開発」(インド)

カルパナ・ヴィスワナート セイフティピン創設者

Kalpana Viswanath Co-Founder/CEO Safetipin

インドでも交通機関や公道で女性に対するハラスメントが発生しており、デリーに本部があるセイフティピンはこうした現状を改善するため、街の安全情報の共有ができるアプリを開発。アプリは中南米やアフリカを含め 16 か国 65 都市で活用されています。

③ 「コンピューター・プログラミングを通じた女性や少女のエンパワーメント」(シリア)

サラーム・アル・ヌクタ チェンジメーカーズ創設者兼 CEO /

平等を目指す全ての世代のためのフォーラム・タスクフォース

Salam Al Nukuta Founder/CEO ChangeMakers, Generation Equality Task Force

内戦下のシリア国内で、コンピューター・プログラミングの習得機会の提供を通じて、女性や女兒のエンパワーメントを支援するチェンジメーカーズの活動と今後の課題について、問題提起を行います。

④ 「ロボティクス技術で介護の変革に挑む」(日本)

宇井 吉美 株式会社 aba 代表取締役

株式会社 aba は高齢化社会における課題解決に取り組んでいる企業です。同氏の祖母の介護経験から、介護の負担を減らしたいとの思いに基づき、ロボット開発の道を志し「排泄センサー Helppad (ヘルプパッド)」を製品化した経緯、育児や介護と仕事の両立しやすい職場づくりについて紹介します。

◇パネルディスカッション(ライブ+見逃し配信) ジェンダー平等なデジタル技術の活用に向けて

市民やユース世代など、様々な人々の立場や多様なニーズに配慮し、ジェンダー平等の推進に寄与するデジタル技術の開発と利用のためには何が求められているのか、パネリストとともに考えます。

パネリスト

小林 傳司 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター長

RISTEX がミッションとして掲げる社会的課題に直面している多様な人々を巻き込んだ研究という視点から、技術開発とその利活用のあり方を中心に報告いただきます。

田中沙弥果 特定非営利活動法人 Waffle 共同創業者

Waffle は IT 分野のジェンダー・ギャップの解消を目指して活動している団体です。女子中高生を対象とした IT (コーディング) コースや、テクノロジー分野でのキャリアを目指す女子とジェンダー・マイノリティーの大学生や大学院生向けのプログラム等を報告いただきます。

福島健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事

コード・フォー・カナザワは、社会課題をテクノロジーで解決する取組や考え方であるシビックテックを 2013 年に日本で初めて開始しました。市民が集まり課題を議論し合うシビックハックナイトの開催や子育て中の女性が行政区を跨いでイベント情報を共有するアプリを利用者と一緒に開発したエピソードなど、ジェンダー視点を技術開発や技術活用に活かしていくための実践について報告いただきます。

コーディネーター

萩原なつ子 国立女性教育会館理事長

8. 申込方法・申込期限

令和4年9月26日（月）以降に国立女性教育会館ウェブサイト

(<https://www.nwec.jp/global/seminar/index.html>) よりお申込みください。



9. 参加費 無料（通信料は参加者の負担となります）

10. その他 セミナー終了後、オンラインページ上のアンケートにて回答をお願いします。